

アメリカ西部の旅

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 伸一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025551

アメリカ西部の旅

森 伸 一*

今年の夏、10日間アメリカ西部に出かけた。今回の旅行は自分でコースを決めてまわった。地学的には有名な場所ばかりである。

1. ロッキー国立公園

サンフランシスコから、飛行機で2時間でロッキー国立公園のひざもとデンバーにつく。デンバーは人口40数万人、コロラド州の州都で、標高1,600m (Mile High Cityと呼ばれている)の高原都市である。ここからロッキー国立公園へは図1のようなコース(全長約360km)を約9時間かけてまわる“One Day Big Circle”という観光バスツアー(グレイライン社、朝9時発、一人25ドル、ホテルで予約すると迎えにきてくれる)がでている。

デンバーを出て2時間、ウィンターパークの手前の峠(3,400m)が大陸分水嶺でここからのロッキーのながめはすばらしい。(大陸分水嶺はこのコースでもう一カ所あるが、ともにContinental Divideという看板がある)グレンビーからエステスパークまでが国立公園となる。この道はTrail Ridge Roadとよばれ、最高地点3,713mまで登る山岳道路で、残雪をいだいた4,000m級の山々が身近にせまり、カール、U字谷、氷跡湖などの氷河地形や高山植物などが見ごたえがある。途中にあるフォールリバー峠(3,594m)のビジターセンターにはロッキーの地質、動物、植物を紹介する展示があり、本やスライドが販売されている。山はだは風化等でガレ場のような感じのことが多い。岩石は先カンブリア代の片麻岩と花こう岩である。エステスパークからリヨンまでは時々、赤色をした地層がみられる(先カンブリア界を不整合におおう古生界、中生界のようである)、そしてボウルダーからデンバーまではのどかな牧場風景が続く。

なおU字谷の典型的なものとして写真でおなじみのベアーレイクには寄らなかった。またデンバー市内(市立公園

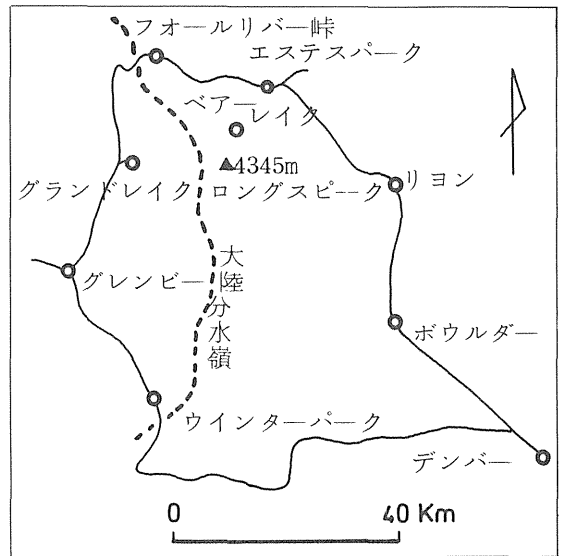


図1: ロッキー“One day big Circle” ツアーコース図

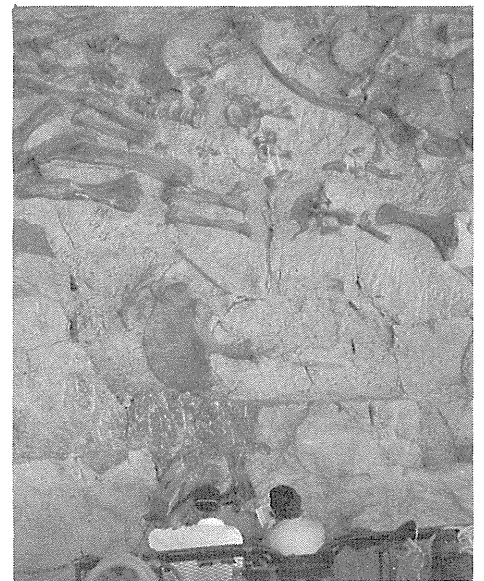


写真1 恐竜国定公園ビジターセンター

*県立磐田南高校

の一角)にはコロラド州立自然史博物館があるが時間の関係で行けなかった(恐竜の骨格標本など地質関係の展示がすばらしい所のようなのだ)。

2. 恐竜国定公園

デンバーから西へバスで9時間(約450 km)でバーナルという小さな町につく。

恐竜国定公園はバーナルの北東方向にある。その一角、バーナルから20マイルの所に恐竜化石が多産する露頭にすっぽり屋根をかぶせ博物館風にしたビジターセンターがある。ここでは恐竜化石の発掘の様子をみせてくれたり(二人の係員が発掘のポーズをする)、恐竜に関する説明文や図が展示されている。ここにかぎらないがビジターセンターにはGeological Highway Mapという地質図が売られている。これをみながらバス(車)で旅をすれば地質の勉強ができるしくみとなっている。ビジターセンターは恐竜国定公園の入口で、この先にはここを流れるグリーン川の浸食地形など見どころがたくさんある。

バーナルのバス停のすぐ東に小さな博物館(Dinosaur Natural History Museum)があり、この付近の地質や遺跡、文化関係の展示がされており、恐竜、魚、三葉虫などの化石を売店で売っている。またインフォメーションでこの付近の巡検用パンフをくれる。その一つに“Drive Through the Ages”というコースがある。このコースをバーナルの町から北へ30マイルドライブすれば中生代から先カンブリア代へと順々に地層がみられる。それぞれの地層の所には説明板がついている(図2)。この30マイルの道はなだらかな起伏が続き、景色もすばりしかった。この見学にはレンタカーを使用した。

3. グレートソルトレイク

バーナルからさらに西へ、バスで4時間でソルトレイクシティである。この町はまわりを山にかこまれた盆地状の地形(標高は約1,300 m)で、ユタ州の州都、モルモン教の総本山がある。グレートソルトレイクは街の中心から西に30 km いった所にあり、ここから北にむかって湖はひろがる。湖岸線の長さ500 km、最大深度11 m、塩分濃度が25% (海水の約7倍)という塩湖で、湖岸にたつと強烈な塩のにおいがする。この湖はウルム氷湖のころには現在の10倍以上の大きな湖で、それ以降の湖水面の変化を示す湖岸段丘が南の山の斜面にいく段かみられた。

湖と街の南西にあるビンガム露天採銅所とを約4時間でまわるグレイライン社の観光バスツアーもある。

4. グランドキャニオン

ソルトレイクシティからラスベガス経由でグランドキャニオンへ行く。ラスベガスからのった飛行機は9人乗りのセスナ機である。砂漠の町ラスベガスを飛びたつとすぐ下にフーバーダム湖がみえてくる。フーバーダムを通りすぎると、赤茶けた水平な地層がみえはじめる。機内には日本語でできる案内用イヤホンがあり、説明に合わせてセスナ機は右に左に旋回する。風化をまぬがれポツンと塔のようにそびえる地層、浸食がはじまったばかりのような谷、第四紀

になって活動した火山による溶岩などの景色が目にとびこんでくる。この日は天気が悪く、途中雷雨にみまわれ（この日にかぎらず、7、8月はひんぱんに雷雨があるようだ）、旋回による揺れとともに生きた心地がしなかったが、1時間半ほどでセスナ機はグランドキャニオン南壁の飛行場に到着する。

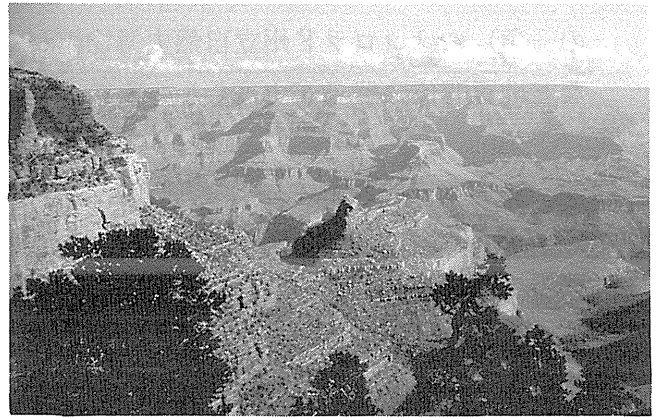


写真2 グランドキャニオン

グランドキャニオンは深さ1,600 m(ホテル、展望台のある縁の標高は2,100 m)、幅1.6~29 kmで全長は450 kmもある。峡谷の上部3分の2は古生層からなり、その下は先カンブリア代の地層で両者の関係は典型的な斜交不整合である。さて、ルートは、夏季はブライト・エンジェルという場所を基点にいろいろの方向への無料のシャトルバスが10~15分間隔ででていいる。バスはいくつかの展望台に寄るので、気がむいた地点でおりて景色をゆっくりみることができる。南壁に沿っての約10 kmはバス道路とは別の見学用歩道があるので、時間があればゆっくり見てまわることもできる。また峡谷にくだる道も何カ所がある。

ビジターセンターは他と同様にいろいろな普及書売っている。ここは公園管理の本部で、いくつかの催し物を行っている。また近くのヤパパイ博物館にはグランドキャニオンの地質や生いたちの紹介(展示やテレビで)や岩石の展示等があり、大きな窓ガラスごしに雄大な峡谷の景色もみることができる。このほか、ビジターセンターの横のShrine of the Agesという建物などで、グランドキャニオン紹介のスライドや映画をやっている。南壁をまわるシャトルバスのほか、東縁ドライブツアーともいわれるバスツアー(有料)もここからでていいる。

グランドキャニオンを見るなら朝晩がいい(太陽光線の当たる角度の変化により壁の色が少しずつ変化する様子が見られる)というので、2日間とも見にいったが天気の条件が悪く残念であった。またこの気温は夏でも朝晩は10度以下になるので、セーター、ヤッケ等の防寒服が必要である。2日目の昼、目の前にひろがる雄大なグランドキャニオンをみながら自炊をした。その味はまた格別であった。

5. アリゾナ隕石孔

グランドキャニオンから南へ132 km(バスで約2時間)の所にフラッグスタッフの町がある。この町はバス、鉄道(アムトラック)を利用してグランドキャニオンへ行く場合の乗換え地点である。西方の丘の上には1930年めい王星を発見したローウェル天文台がある。

アリゾナ隕石孔はフラッグスタッフから東へ60 km行った所にあり、正式名はBarringer Meteorite Crater、現地での通称はMeteor Craterと呼ばれている。アリゾナというと砂漠を連想したが、意外と緑があり(といってもあれ地)、なだらかな起伏がいつまでも続く。ハイウェーから専用道路を9 km南下すると平原の先に少し盛り上がったところがあるが、これが隕石孔の縁であった。3.5ドルはらって博物館にはいると隕鉄の標本の説明や展示があり、この

裏から隕石孔をながめることができる。隕石孔は富士山の火口ぐらいの広さで、クレーターの底には以前隕石孔を調査した人が使った機械の残骸が見える。隕石孔の壁はグランドキャニオンと同じ古生代の地層（石灰岩や砂岩）で、きれいな成層構造をしている。博物館の売店にはペテリファイドフォレスト（化石の森国立公園、ここからさらに東にいった所）にある化石木（珪化木）や、小さな隕鉄の破片などを売っていた。なおアリゾナ隕石孔とローウェル天文台へはレンタカーを利用した。夜8時5分フラッグスタッフ発の寝台列車に乗ってロスアンゼルスにむかった（翌朝7時20分着）。